

# かわらばん

連絡先 新潟市市民生活部市民協働課 TEL: 025-226-1105

ほかのコミ協は  
どう進めているの？  
事例を学び合い  
より良い地域活動へ！



新潟市では「持続可能な地域づくり」を進めるため、令和元年度から「モデルコミュニティ協議会」を募ってサポートをしてきました。事業概要をお伝えします。

過去2年間の  
取り組み事例

令和元年度 小合地域コミ協

令和元・2年度 坂井輪中学校区まち協

令和2年度 有明台小学校区コミ協

人口データなどから  
活動の方向性を探る  
勉強会

コミ協活動の  
実態調査と自己評価、  
内容や体制の見直し

住民ニーズを探る  
住民アンケート

成果

活動を見直すきっかけになり、  
意欲につながった

課題を共有し、取り組むべき  
事業が明らかになった



一方で…

課題は見えているが解決にどうつなげるか悩んで  
いるコミ協も多い

各コミ協の実状は差があり個別的。課題をより  
明確に捉え、自ら対策を組み立てる力が必要



令和  
3年度

### 8つのコミ協に ヒアリング&アドバイスした内容を類型化し 活動の見直しのポイントを共有します

令和3年度は、コミ協の立地環境や人口規模などから8コミ協を選定し、活動についてのヒアリングと専門家によるアドバイスを実施。状況ごとに類型化し、活動の見直しのポイントや手順を明らかにします。事例集にまとめ、全市対象のフォーラムでも共有する予定です。(3月予定)

社会の変化や住民ニーズに応える活動に転換し、携わる人の負担軽減と次世代へ受け継ぐことを目指します。



庄瀬地域コミュニティ協議会のヒアリングの様子

お互いの活動事例から学び合い  
より良い地域活動への手がかりに

環境や活動規模などを  
類型化



ステップ  
①

環境や活動状況が  
似ている地域の取り組み事例から、  
悩みや好事例を共有  
活動の見直しのポイントや手順を  
明らかにする

ステップ  
②

全市で  
共有

事例集の作成 (3月予定)

フォーラムの開催



うまくいってる？ 困りごとは？  
聞かせて！ みなさんの  
コミ協のお話



8コミ協に活動状況のヒアリングを実施。持続可能な地域活動の参考になるお話や困りごとなどをたくさんお聞きしました。各々悩みを抱えながらも、生き生きと活動されています。立地条件や人口、活動規模などを類型化し、今後行う専門家のアドバイスをまとめた活動の見直しポイントを詳しく事例集などでご紹介する予定です。

## 中央区 万代地域コミュニティ協議会

### 地区内外の広域連携で活動の可能性を広げる

大学と連携して取り組んだ事業者との空き家活用の取り組みや防災点検、近隣コミ協との共同事業など連携型で事業を実施。地域内外の力を生かし継続するには「受け入れる」「応援する」スタンスを重視。



①〈市街地〉昔ながらの住宅地と商店街、マンションなどの集合住宅が混在し、万代シティや新潟駅に近接する中心市街地。

人口 7,726人 | 高齢化率 22.4%



東区



地域内を3体的に活動  
地域課題  
と意見を吸  
業者と協力

①〈市街地〉  
大規模な  
大規模商

## 西区 コミュニティ佐潟

### 新旧2つの地区の持ち味を 尊重しながら融合 地域のシンボルを求心力に

「佐潟は地域の宝」をキーワードに、みずき野、赤塚、木山の3地区が学校や佐潟の保全団体等と積極的に連携。会長交代を機に、成り立ちや活動実績も異なる地区の融合を考え、あらためて活動を見直し中。



①〈潟・砂丘・新興住宅地〉佐潟を有する昔ながらの農村地帯と、開発された新興住宅地や大学がある地域で構成されている。

人口 6,677人 | 高齢化率 28.3%



## 西蒲区 角田地区コミュニティ協議会

### 「任せる」のがうまくいく 個性と自主性を生かす関係性で 無理なく継続

キーワードは「やりたいことをやってみる」「任せる」。各部会が主体的に活動。移住者を積極的に受け入れながら、部会メンバーの自主性を尊重し、ゆるやかにつながり合う関係性が継続のカギとして取り組み中。



①〈海・山・砂丘〉角田山麓で砂丘の高低差のある農村地帯。海水浴場やワイナリーあり。越前浜自治会はR2まで移住モデル地区。

人口 1,342人 | 高齢化率 36.1%



人口  
団体  
組み  
点場  
話か

①〈田  
田  
田



## 新潟市木戸地域コミュニティ協議会

意見を吸い上げ  
戻すしくみを構築  
担当役員をエリア分け

2つのエリアに分け、担当役員を配置し、それぞれが主  
。経験豊富な事務局が実務面を支える。  
。捉え、自治会からコミ協、自治協<sup>(※)</sup>へ  
い上げ、戻すしくみをつくり、行政や事  
して解決に向けた取り組みを実施。

(※)「区自治協議会」…市の附属機関

地区内に小学校が2つある  
住宅エリア。  
施設や幹線道路が隣接。

人口 16,981人 | 高齢化率 27.1%



## 北区 松浜地区コミュニティ協議会

コミ協と自治振興会が両輪で  
それぞれの長所を生かして活躍  
重複や類似の活動は見直しへ

多様な構成団体がテーマごとに活発に活動。地域課  
題への対応や区役所からの業務受託もあり。学校との  
つながりは長く継続している。団体どうしの連携もある  
が、負担軽減のために自治振興会・コミ協との役職  
の重複や類似する活動を見直す検討会を実施中。

①〈商業・農漁業〉近隣一帯の中心地で、  
昔ながらの商店街や漁港がある住宅地。

人口 11,892人 | 高齢化率 31.1%



## 江南区 早通小学校区コミュニティ協議会

役職の重複は利点もある  
同じ人が担うことで  
学校と地域の絆が深まった

地域教育コーディネーターがコミ協事務を担当  
し、学校やPTAとのつながりが強い。学校と連携  
した子ども対象の活動が中心。今後は広域的な視  
点で地域課題を捉えることを検討中。



①〈田園・商工業〉鶉の子ICや  
市街地(商業地)に近いが、  
居住エリアは農村地帯。  
工業団地もあり。

人口 4,320人 | 高齢化率 26.8%

## 秋葉区 新関コミュニティ協議会

地域の特性を尊重し  
社会の変化に即した  
事業の継続と継承

活動理念をもとに実施した事業を検証し、次年  
度の活動計画に生かす。人口流出を防ぐため  
に、子育て世代の声を聞き、コミ協で児童クラ  
ブを運営。コミ協の役割を自覚し、学・社・民  
が連携、協働する地域づくりに取り組み中。

①〈里山・河川・田園〉新津丘陵と  
阿賀野川に囲まれた農村地帯。  
五泉市との境界。

人口 1,903人 | 高齢化率 40.3%



## 庄瀬地域コミュニティ協議会

多様な団体や事業者と連携し  
「できること」を広げる  
積極的にオンラインも活用

が少ないからこそ、地域内の多様な人材・  
事業者を最大限に活用し、分野を超えた  
合わせて課題解決に取り組む。コミ協の拠  
所が地域の求心力。住民ニーズも日々の対  
らキャッチ。

①〈果樹・河川〉信濃川に隣接し、  
と果樹畑が広がる平坦な農村地帯。  
町との境界。

人口 2,525人 | 高齢化率 35.1%



※人口・高齢化率は国勢調査2015年データ



# 地域コミュニティ協議会の運営に関わるアンケート調査結果 (令和2年度実施/抜粋)

## ねらい

令和2年度に市内全コミ協を対象に、コミ協や自治会が行う地域活動について、「理想(目標)と現状」を選択形式による項目を設定してうかがいました。回答する際に活動をふりかえり、あり方を見直していただくことをねらいとしています。

集計は理想と現状の差を出し、「大きな課題は何か」や「できていること、できていないこと」を明らかにしました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も回答いただきました。

※回答結果の詳細は市民協働課までお問い合わせください。

アンケート回収数

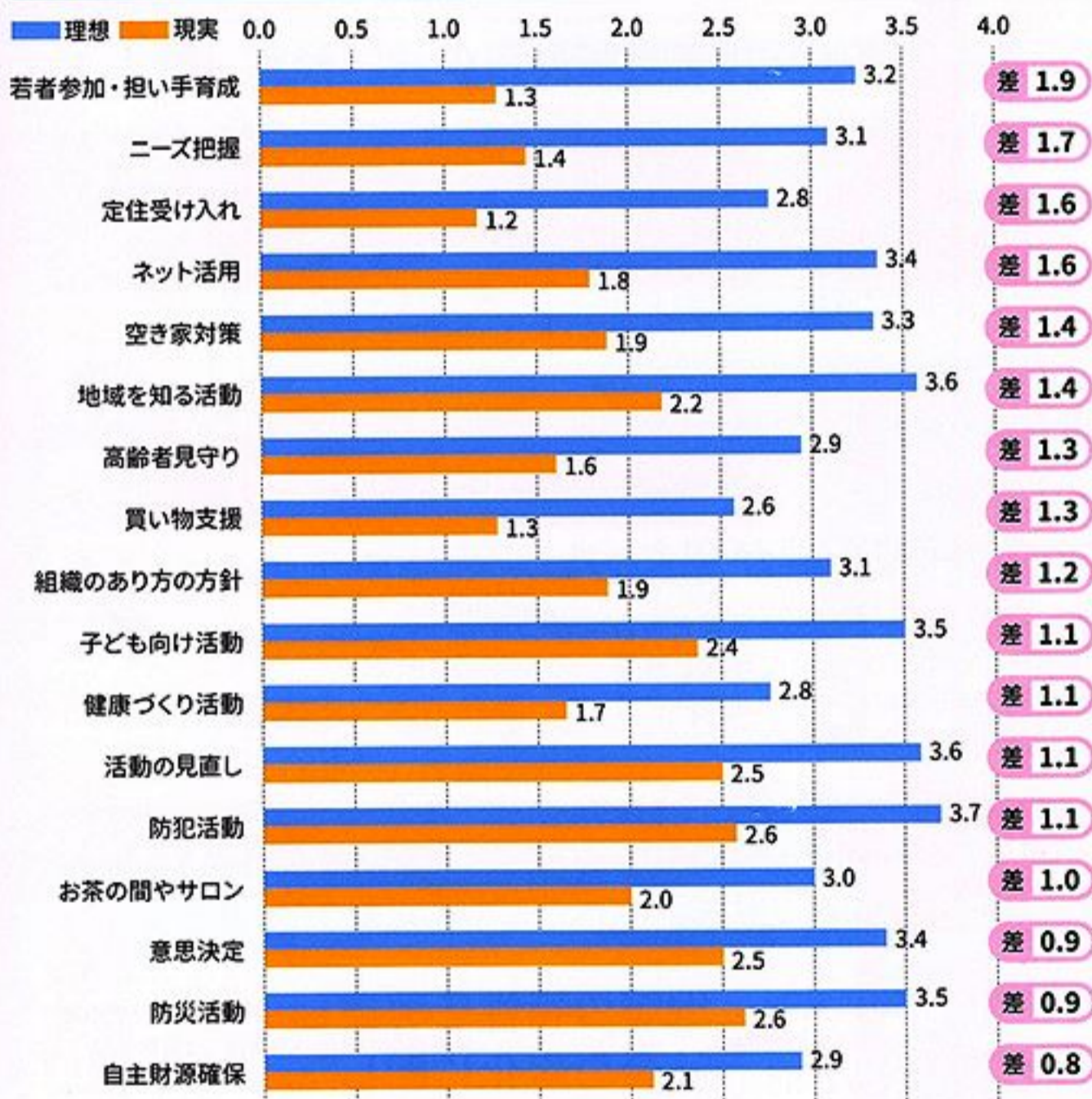
83コミ協  
99コミ協中

回収率  
83.8%

※質問項目によって無回答や複数回答あり。集計数(回答率)は異なる。

うまくできていますか?

## 地域活動や運営体制の「理想(目標)」と「現状」(全市平均)



### 理想と現状の差が大きいもの(上位)

～うまくできていない、または課題として認識されている分野～

- 1 若者参加・担い手育成 (6つの区で課題の1位)
- 2 住民のニーズ把握
- 3 定住受け入れ
- 3 ネット活用

### 理想と現状の差が小さいもの(上位)

～着実に実行できている分野～

- 1 自主財源確保
- 2 組織内の意思決定
- 2 防災活動
- 3 お茶の間やサロン

地域の規模や居住環境、関わる人材、組織運営のあり方によって、目標や取り組みは異なります。人手不足により「理想とする目標が立てられない」「やりたくてもできない」ことも考えられます。課題解決策は一つではありません。状況に応じて、あらためて活動や運営方法を見直すことをお勧めします。

## 感染症拡大の影響や活動の変化、工夫の声(回答一部要約)

令和2年度はほとんどのコミ協の活動が縮小や中止に。実施の判断や取り組み方を悩みつつ、感染対策などを工夫しながら行った。再開時期は地域事情に応じてさまざま。



総会や役員会などは手紙や電話で連絡を取り、書面開催・決議を行った。SNSなどインターネット利用を始めるきっかけとなった。



住民同士のつながりが希薄になり地域活動への意識が低下気味。地域の様子やニーズの把握も難しく財政面にも影響あり。



感染対策グッズの備蓄、行動マニュアルの作成、活動の見直しをした。住民の意見聴取や市の支援を希望する声もあった。

